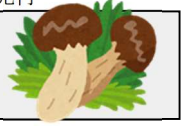


ふくおかの経済

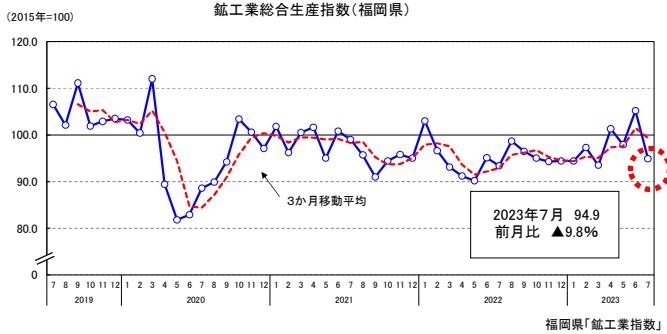
令和5年9月号



生産

持ち直しの動きに足踏みがみられる。

7月の生産指数は金属製品工業、汎用・生産用機械工業などが低下したため、2か月ぶりに前月を下回りました。

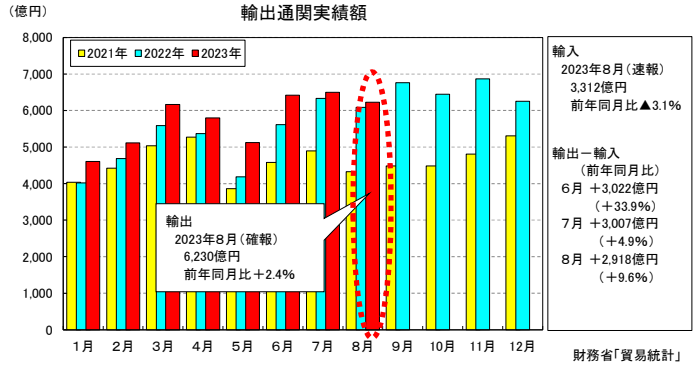


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額は、前年同月を上回っている。
輸入額は、前年同月を下回っている。

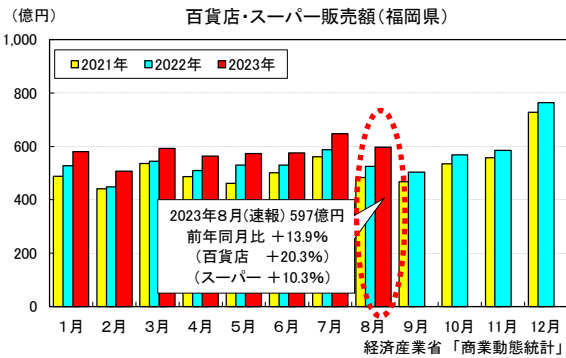
8月の輸出額は、前年同月比+2.4%と前年同月を上回りましたが、輸入額は同▲3.1%と前年同月を下回りました。



消費

緩やかに回復している。

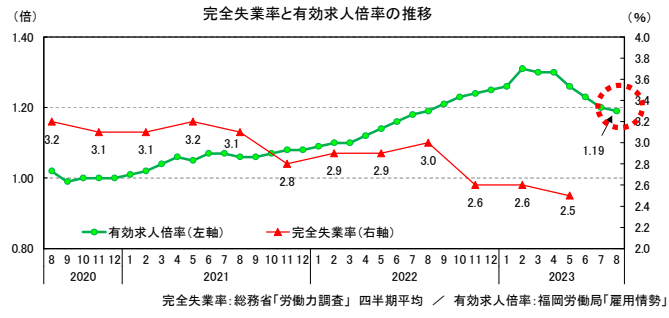
8月の百貨店・スーパー販売額は、23か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、改善している。

8月の有効求人倍率は1.19倍で、前月を0.01ポイント下回ったものの、前年同月では同倍となりました。

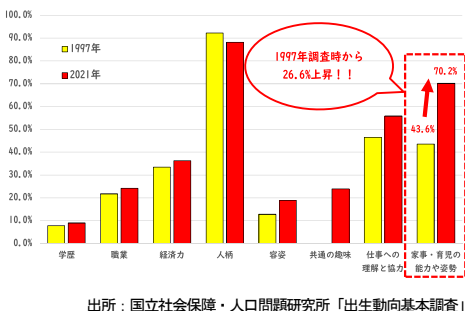


「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

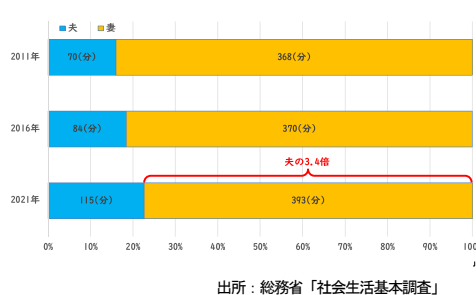
今月のトピック 少子化社会に歯止めを～男性の家事・育児参加がカギ～

- 未婚女性(18～34歳)が結婚相手に求める条件では、男性の「家事・育児の能力」を重視すると答えた割合が7割を超えるなど、夫婦で協力して仕事・家事・育児を行うというライフスタイルを希望している若い世代の女性が多くなってきています(図1)。
- 一方で、共働き世帯における夫の家事・育児関連時間は増えてきているものの、妻の家事・育児関連時間は夫の約3.4倍と、妻へ家事・育児負担が偏っている状態が続いています(図2)。また、子どもがいる男性の生活時間の増減希望を見ると、20～39歳の若い世代では、仕事時間を減らし、家事・育児時間を増やしたい意欲が強いことが窺えます(図3)。
- 合計特殊出生率が相対的に高い諸外国は、日本と比べて男性の労働時間が短く、家事時間が長い傾向にあります。少子化が進む日本においても、長時間労働の是正により男性の家事育児時間を確保することで、男性の家事・育児への参加が推進され、少子化の進行に歯止めがかかる可能性が高まると考えられます。

図表1 未婚女性(18～34歳)が結婚相手の男性に求める条件 - (重視すると答えた割合) -



図表2 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事・育児関連時間の割合推移 -週全体、夫婦と子供の世帯(共働き)-



図表3 家事・育児時間、仕事時間の増減希望 (子どもがいる男性)

